

兵庫・長田神社境内遺跡

所在地 神戸市長田区大塚町

2 調査期間 一九八九年(平1)四月～一九九〇年一月

3 発掘機関 神戸市教育委員会

4 調査担当者 西岡誠司・佐伯二郎

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 縄文時代晚期、弥生時代後期、平安～室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

長田神社境内遺跡は六甲山南麓に位置し、西へ派生する尾根の末端及び茹藻川によって形成された沖積地上に立地する。発掘調査は、

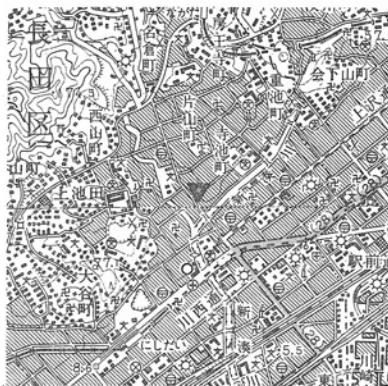
市街地再開発事業に伴い一九八七年から実施されてい。これまでの調査で、縄文時代晚期の土坑をはじめ、

8 木簡の釈文・内容

(1) 噴□疋□ (符籙) 尾急々如律令 (236)×(34)×3.5 081

(佐伯二郎)

弥生時代後期の住居跡や溝・壺棺墓、古墳時代後期の溝、平安時代の木棺墓、鎌倉時代から室町時代にかけての井戸等が検出されている。木簡が出土した井戸は、井戸側径約八〇cm、深さ約一mの石組井戸で、下部に直径約七〇cmの割物の水溜を据えていた。ほかに須恵器・土師器・瓦器が出土しており、井戸の廃絶時期は一四世紀と考えられる。



(神戸・須磨)

